

ふるさとの会のケア付き就労利用者の意識とプロフィールに関する調査結果の概要【速報版】

本調査の目的は、「ケア付き就労利用者が具体的にどのような支援を必要としているのか（ケア付き就労利用者のニーズ）を明らかにするとともに、「四重苦」を抱える高齢者への支援の可能性を探る」ことにある。特に、ケア付き就労利用者のニーズとしては、就労に従事したり、就労継続するための条件や要因（＝自立を促すための支援のあり方）がどのようなものかを明らかにすることが最終的な目的である。そのための第一段階としてケア付き就労利用者の実像を把握し、支援内容や関わり方等の整理を目的として、本調査を実施した。なお、ここでは、現在ふるさとの会を利用しながら就業準備中で、今後ケア付き就労利用者となる可能性のある方を含めて、「ケア付き就労利用者」としている。

①ケア付き就労利用者のプロフィールと就労状況

ケア付き就労利用者のプロフィールは、男性が9割、年齢は23歳～80歳と非常に幅広い。現在の住まいは、自宅や民間施設（宿泊所等）利用者が多いが、過去に家を失った経験のある利用者が3分の2を占めている。

経済面では、生活保護を受給している利用者が7割を占めるが、生活保護受給をやめたいと考えている受給者も2割程度を占める。

就労状況では、ふるさとの会で担当している業務では「配膳」や「清掃」、「生活支援（宿泊所の日勤・夜勤等）」、「職員の補助業務（緊急就労・居住支援事業）」などが中心であり、約3割の利用者は1か月あたりの収入額が10万円を超えている。また、利用者の8割以上が仕事を続けたい意向を持っている。

図1 性別

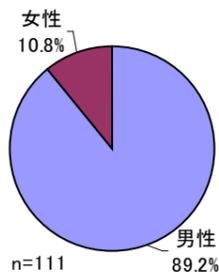


図2 年齢構成

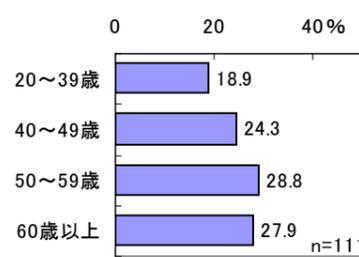


図3 現在の住まい

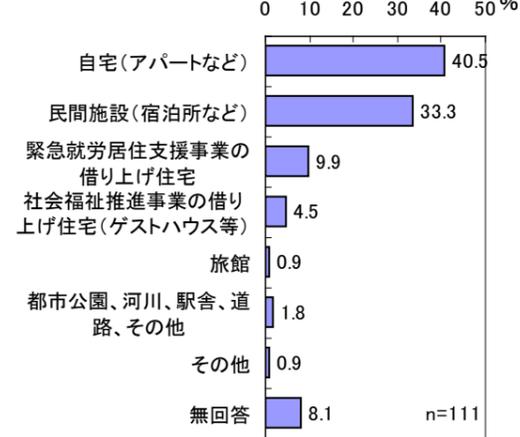


図4 過去に家を失った経験

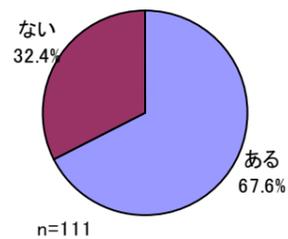


図5 生活保護の受給状況

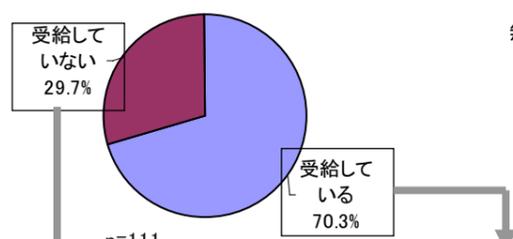


図6 今後の受給意向 <未受給者>

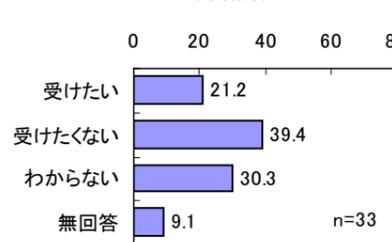


図7 今後の受給意向 <受給者>

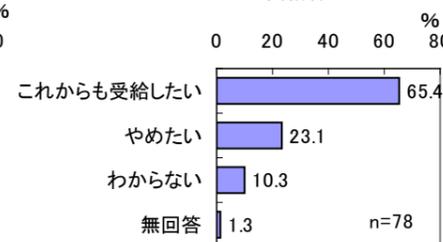


図8 ふるさとの会での業務内容

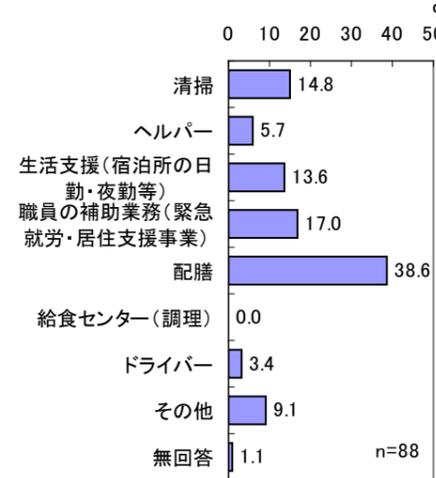


図9 1か月あたりの収入

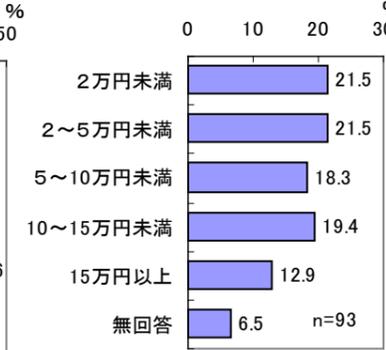


図10 仕事の継続意向

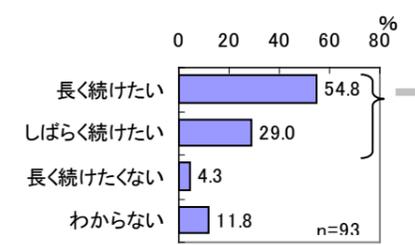
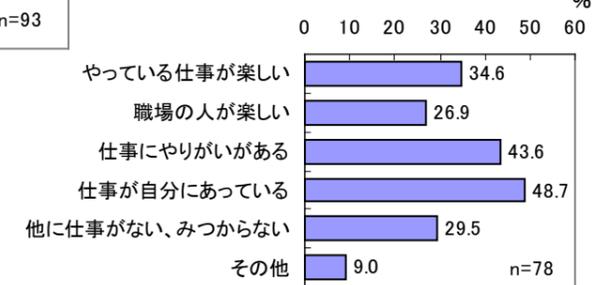


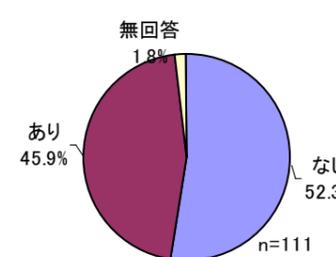
図11 仕事を続けたい理由



②ケア付き就労利用者の抱える困難さ

健康状態に関して何らかの疾病を抱えている利用者は半数近くを占める。また、障害者手帳を持っていたり、読み書きに苦労している利用者もそれぞれ1割程度みられる。神経症者の症状把握や迅速な発見などメンタルヘルスの評価に利用されている GHQ28 により回答者の主観的健康状態をみると、利用者の半数は「問題あり」と判定されており、特に20～39歳の利用者では85%がメンタル面の問題を抱えていることが明らかとなった。

図12 疾病既往歴の有無



【疾病既往】	【疾病既往】
○心疾患（狭心症、心肥大等）4名	○結核3名
○消化器疾患（胃・十二指腸潰瘍等）8名	○喘息2名
○肝臓疾患（肝硬変等）3名	○免疫系疾患（HIV等）3名
○糖尿病9名	○うつ病6名
○高血圧11名	○不眠症4名
○神経系3名	○適応障害2名
○脳梗塞3名	○統合失調症1名
○筋骨格系（変形性関節症・腰椎症等）7名	○その他11名

図13 障害者手帳

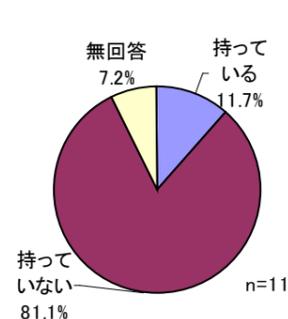


図14 読み書き

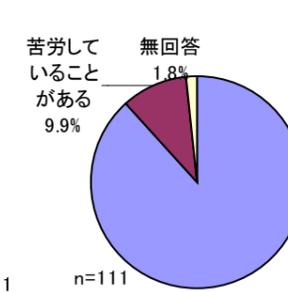


図15 GHQ28 総合判定結果

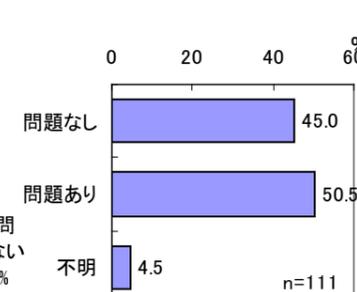
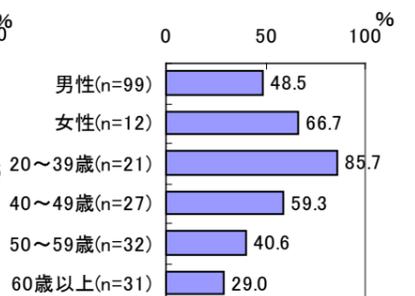
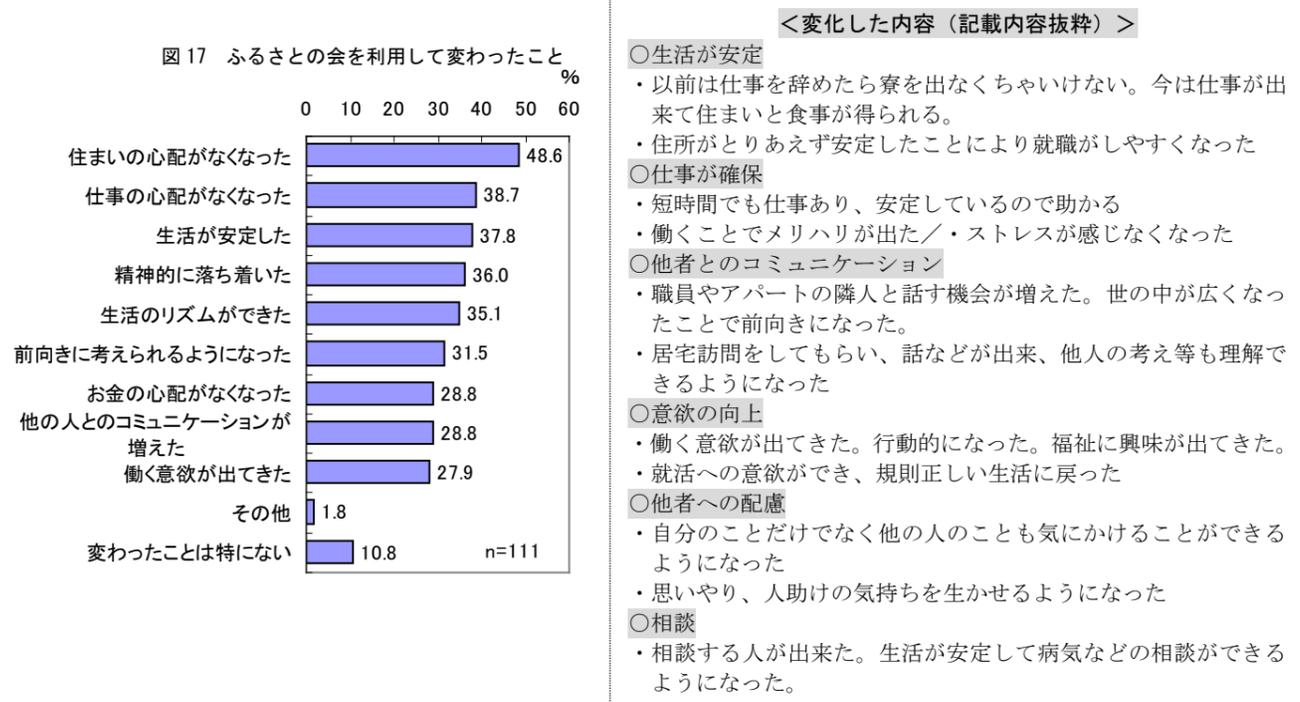


図16 GHQ28 総合判定結果 問題あり割合<性別・年代別>



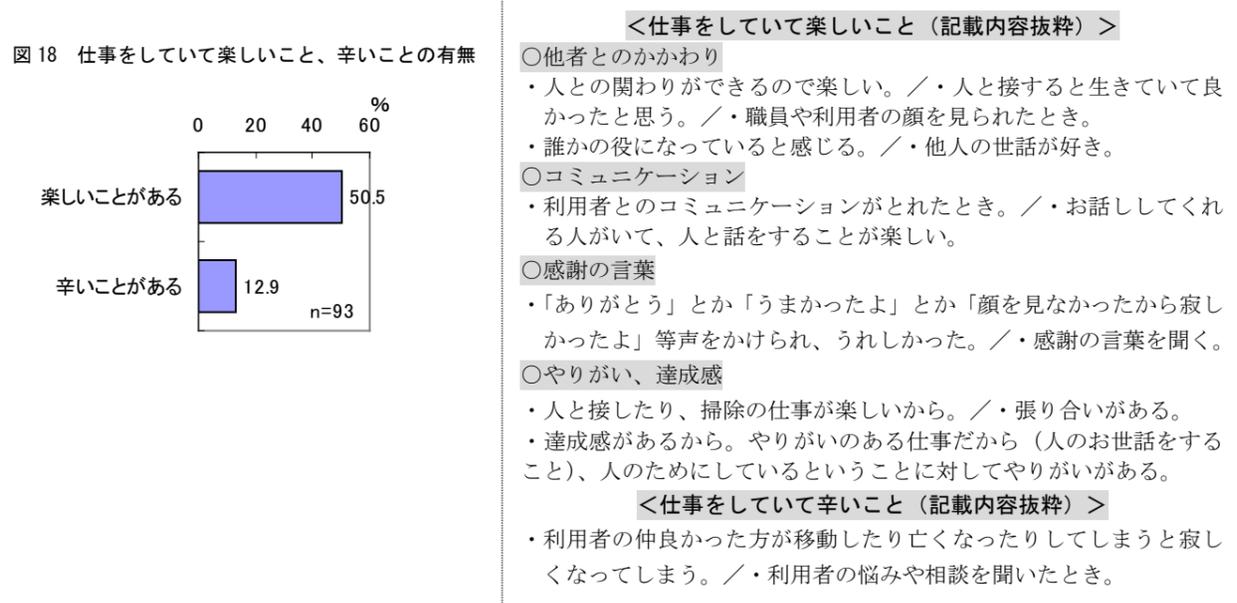
③ふるさとの会利用による生活の変化

ふるさとの会を利用することで利用者の多くは生活面でのプラスの変化があったと回答している。住まいや仕事の心配がなくなったことにより、精神的な面（落ち着いた等）や生活行動面（規則正しい生活等）、意欲面（仕事に対する意欲、前向きに考えられる等）、他者への配慮（他の人のことも気にかるようになった等）などの変化があったと回答している。



④「四重苦」を抱えた高齢者への支援業務に対する意識

ふるさとの会での仕事に対して、回答者の半数が「仕事をしていて楽しいことがある」と回答しており、特に支援対象である高齢者との気軽な会話や感謝の気持ちを伝えられることが利用者の気持ちの励みになっていることがうかがえる。また、利用者の約 1 割は「仕事をしていて辛いこと」があると回答しているが、身体的な理由以外では「高齢者が移動したり亡くなったりすると寂しい」「高齢者の悩みや相談を聞いたとき」などの回答が寄せられており、高齢者への想い・共感する姿が読み取れる。



⑤調査結果の中間まとめ

ふるさとの会でケア付き就労（含むゲストハウス利用者）に従事する利用者は、男性が 9 割を占めるものの年齢層は 23 歳～80 歳までと非常に幅広い。

利用者の 3 分の 2 は失業等によりかつて自宅を失った経験を持ち、健康状態も半数程度が何らかの疾病を抱えていたり、神経症スクリーニングで「問題あり」との判定が出ている（特に若い世代ほど神経症「問題あり」の割合が高い）。

健康面以外では、若年層ほど家族・親戚との関わりが稀薄である割合が高く、また現在自宅以外の生活者ほど一人暮らし経験がないなど、仕事以前にベースとなる生活を築く上での諸課題を多く抱えていると考えられる。

利用者一人ひとりが抱えている課題は様々であり、ケア付き就労による働き方（業務内容、就労日数・時間数）も多様である。現就労者の 8 割以上は「今後も続けたい」という意向を示しており、その理由も「仕事が自分にあっている」「仕事にやりがいがある」「やっている仕事楽しい」など仕事に対する肯定的な意見が上位を占めている。

「ケア付き就労」とは、利用者一人ひとりの状態に合わせて柔軟に仕事をつくり出す仕組みであり、業務に携わることで利用者自身が自ら社会生活や就労に対する意欲を高めるエンパワメント型の支援である。ふるさとの会の職員は、利用者一人ひとりの抱える課題を受け止め、利用者の意向を尊重しながら生活面・就労面の双方からきめ細かく助言するなどの対応を行っている。そのような利用者の状態に即した寄り添い型の支援が行われることにより、利用者自身に「仕事は自分にあっている」「やりがいがある」という意識が芽生え、就労に取り組める環境がつけられていると考えられる。

◎利用者への支援事例（関係者インタビューより）

・ギャンブル依存症を抱える利用者への雇用と生活の支援

【失業+犯歴+ギャンブル依存+ホームレス→生活保護申請→就労支援ホーム入居→仕事の紹介→職場での協働作業→職場が居場所に→ギャンブル→生活支援（金銭管理）→安定→転宅を検討】

40 代男性。クリーニング店をリストラされ生活困窮。生活保護申請後、就労支援ホームに入所。はじめは就労の意欲がみられなかったが、4 ヶ月経過したころに、就労支援ホームの担当職員に仕事の相談をし、ふるさとの会の高齢者向け住宅の清掃に採用された。就労後は、マニュアル通りの仕事をこなしていたが、職場の責任者が一緒に仕事をしたときに清掃技術の高さに気付き、信頼して任せられるようになった。いまではすっかり職場に定着し、仕事が終わっても入居者とテレビを観ながらコーヒーを飲んだり、肩をもんだり。雑談するなどして、和やかに生活をするようになっている。生活面では、ギャンブルにのめりこんでしまう問題を抱えているため、ケースワーカーと話し合い、当面は担当職員が金銭管理を行うことにした。家賃と生活費を確保することで、生活も仕事も安定し、アパートへの転宅準備をしている。転宅後も金銭面や生活のサポートのアフターケアが必要であることは、担当職員とケースワーカーの間で共有している。

・DV 被害者の就労支援

【離婚→生活困窮→生活保護申請→自立支援プログラム→就労体験→中断（うつ・引きこもり状態）→地域イベントに参加→就労希望→仕事の紹介→軽労働からスタート→職場での協働作業→自信を回復→ステップアップ（チャレンジ）】

夫の DV 被害を受け、離婚後生活が困窮し、生活保護を申請。当法人の就労体験（ヘルパー）に参加されるが、本人からは、「私はちょっと、人と関わりたくないし」と拒否的な発言があった。その後、相次いで身内が無くなり、訪問や電話などで定期的に声掛けやイベントの案内等を行ったが、拒否的であった。その後も声をかけ続けたところ、イベント参加をきっかけに、初めて「働いてみようかな？」との発言があった。ふるさとの会の高齢者向け住宅の配膳・皿洗いの仕事を紹介し、就労支援職員と一緒に見学、採用となった。最初の頃は、オドオドし、自信なさげで、利用者とはほとんど会話することもなかったが、職場の責任者と一緒に仕事をしていくうちに、職員を介して、利用者とは話をするようになっていった。仕事をするうちに、職員に家族の話をするようになった。また、仕事に行くようになってから、息子に「行ってらっしゃい！頑張ってるね」と声を掛けられるようになり、仕事に対する意欲と自信を取り戻していった。週に一度の就労から、働くことの楽しさ、生きがいを見つけ、今は小売業の面接にチャレンジしている。「仕事をしなさい！」ではなく。彼女が「仕事に就いてみようかな？」と思うように、小さなきっかけづくりと、就労先で職員がよりそい、支援した事により、次のステップへいくきっかけを提供した。